

恐竜の子孫を庭で撮影（野鳥を観察）

島 俊明（ひとく地域研究員）

1. はじめに

兵庫県の自然豊かな地域に住んでいる私は、若いころから自然の中で野鳥の撮影を楽しんでいた。当時のカメラ機材は大きく重く、撮影に行くには気合と体力が必要だった。仕事の都合などでしばらく撮影から離れていたが、退職し時間ができたので野鳥の撮影を再開した。

野鳥が庭に来るようにすれば、カメラ機材を運ばなくてよく毎日撮影できる。そこで庭にエサ台や水場などを設置してみると、思った通り目の前に野鳥が来て撮影しやすい。これを手軽に継続するために色々と試しており、トライ&エラーの経過も簡単に書いておくことにする。

タイトルが「恐竜の子孫・・・」となっているのは、私が恐竜好きのひとく地域研究員であることと「鳥類は恐竜から進化した」ことを多くの人に知ってもらうためである。

2. 野鳥を庭に呼ぶ方法

2-1, 基本的な考え方

一般的な方法であるエサ台や水場の設置を基本とする。設置する時期は、冬場（エサが少ない）に少なめの量にする。対象は メジロ、シジュウカラ、ヤマガラなど小型の鳥とする。



写真A1 メジロ



写真A2 シジュウカラ



写真A3 ヤマガラ

2-2, エサ台の設置

メジロ用： リンゴジュースを専用のジュース台に入れて与えている。

当初は、植木鉢を裏返して台にしてみかんを置いていた。しかし、シロハラが占領して食べるようになり、みかんを木につるとヒヨドリが来て食べだした。ほかにも、ミカンだとエサ量の管理や清掃などが面倒なので、エサの量が確認でき清潔に保てるように改善している。

現在は、リンゴジュースをジュース台で与えている。写真の通り、今もシロハラとヒヨドリが来てメジロのエサを大量に横取りしているがそれも楽しい。



写真B1 メジロ



写真B2 シロハラ



写真B3 ヒヨドリ

シジュウカラとヤマガラ用： ピーナッツを小さく割って窓際のエサ台で与えている。

当初エサはヒマワリの種を与えていたが、エサ台に置くとすぐになくなる。そこでシードフィーダーを自作し自動供給にした。すると大量に消費されるし、ヒマワリの種のカラが庭中に広がり清掃が大変で家族から苦情が出た。そこでエサをピーナッツに変え、エサ台も窓際に固定して家の中から供給出来るようにして数量の調整も簡単になった。思わぬハプニングは、ヤマガラが家に入ってくる事があり、驚きとかわいさで家族が笑顔になった。



写真 B4 窓際のエサ台



写真 B5 室内から撮影



写真 B6 家に入って

2-3, 水場の設置

飲み水用： 大きなマグカップに水を入れて庭に置いている。

当初からこのスタイルで設置しており、シジュウカラとヤマガラが主に使っている。

バードバス用： 植木鉢の受け皿に水を入れてスタンドの上に置いている。

メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、スズメが使っている。様子を見てみると、メジロやヤマガラは一羽で入っているが、スズメは、一羽でも複数羽でも入ることも多く最大4羽で入っていた。ただ、メジロが乱入したことがあり観察は楽しい。



写真 B7 マグカップの上



写真 B8 バードバスに入る



写真 B9 メジロが乱入

3. 面白い発見と疑問

観察していると、2羽で来るメジロの仲の良さに気がつく。連なって飛んで来るだけでなく、止まるときはピッタリ寄り添う姿を見る。図鑑では見ないし、恐竜ではどうだろうと疑問になる。

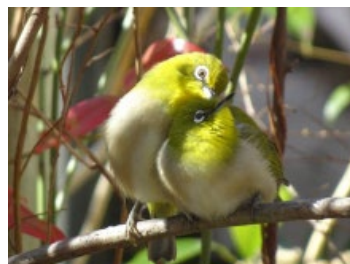


写真 C1 朝から仲良し

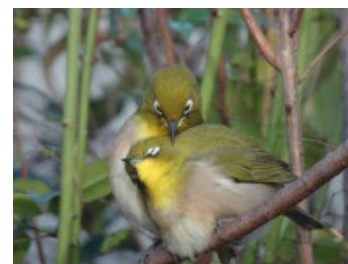


写真 C2 気持ちいい

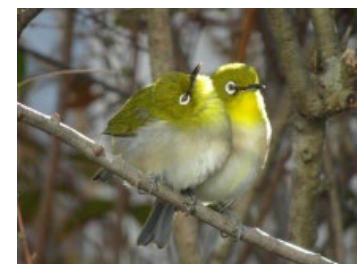


写真 C3 夕方もおねだり

4. 活動の様子

野鳥の撮影は、自宅リビングの窓際にカメラを置いて鳥が来たら撮影するという簡単なもの。天気や日差しで写真の出来が変わるので、ダメでも気長に明日撮れたらいいなと考えている。

エサのジュースとピーナッツは、私のおやつを分けている。なので、ジュースは私の好みで普段はアップルジュースだが他のジュースでも飲む。でも、どのジュースが好きか聞いてみたい。

これはエサ不足で野鳥の数が減らない事を目指している。時々ミカンも与えているが、他にも南天などの実のなる木を生やしている。夏場に虫を捕まえてくれることを願って！



写真D1 ミカンを食べる



写真D2 南天を食べる



写真D3 虫を捕まえ

夏場は草木が生い茂り野鳥の撮影が難しい。そのため、植物の撮影をする事も多く庭の草花などを撮影したり公園などで撮影して楽しんでいる。この夏は、つゆ草がきれいに咲いたのでスケール入りや超アップなど本格的に撮影してみた。新しい分野への挑戦は難しいがそれが楽しい。



写真D4 つゆ草と定規



写真D5 つゆ草のアップ



写真D6 超アップ

ひとはく地域研究員ですが、化石が専門ですので鳥のことは図鑑やネットで調べて活動している。兵庫県で丹波竜が見つかり、ひとはくの恐竜ボランティアに参加し活動する中で、講習を受け勉強し「化石専門指導員」の資格を取った。そして「ひとはく地域研究員」として登録した。

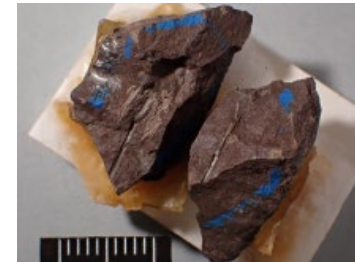
主なボランティア活動は、化石の剖出（石から化石を掘り出す）や石割（石を割って化石を探す）と化石などの撮影をしている。以下は、実際にひとはくの化石を撮影したものです。



写真D7 剖出した展示化石



写真D8 判別練習用の化石



写真D9 学習用の化石

5. まとめ

野鳥の撮影を本格的に再開して3年になる。コンパクトデジカメで撮影しているが、機材の進歩は目覚ましく高性能で扱いやすい。自分では満足できる写真が何枚か撮れているが、もっといい写真を撮る為に撮影環境を整えたりしている。しかし、一番大事なのは天気と野鳥の様子だろう。エサ台は、野鳥が安心して来るようにさらに工夫したい。

カメラに関してはちょっと詳しい。カメラメーカーに勤め、設計の基礎や撮影実習などの教育を受け仕事で使っていた時期もあり、その経験が大いに役立っている。鳥についても仕事で関わったのがきっかけなので、多くの先輩方に感謝したい。

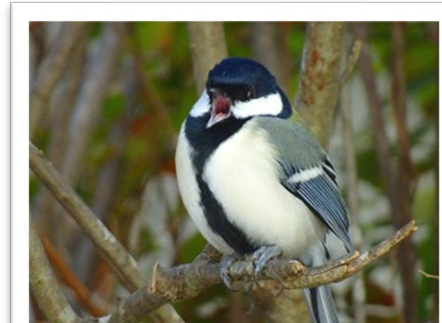
今回は、野鳥の撮影を再開した宣言です。(2025年現在) 数年続けて、良い写真を撮影できた時や面白い発見などがあればまた発表します。研究員の先生方に希望を言うなら鳥語の翻訳機が欲しい。

「集まれ」のシジュウカラ語が「ヂヂヂヂヂ」、ヤマガラ語だと「ニーニーニー」に聞こえるな。

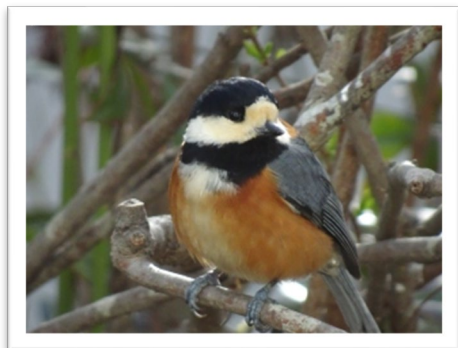
最後に今まで撮影した写真の一部を紹介します。



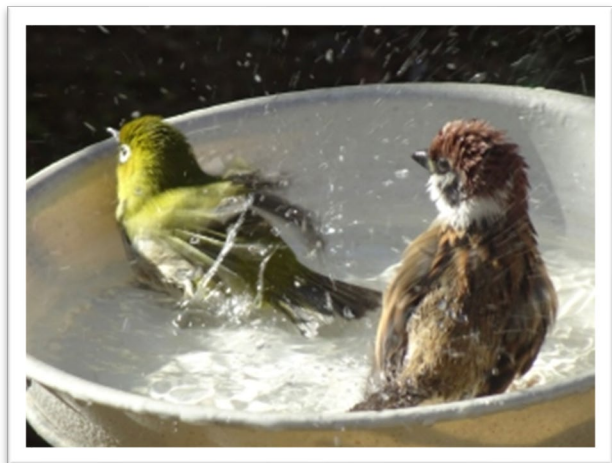
写真E1 いつも仲良しのメジロ



写真E2 大声で話すシジュウカラ



写真E3 警戒するヤマガラ



写真E4 水浴びするメジロと迷惑そうなスズメ